



編集 SEF事務局
 連絡先 03-3358-4434
 URL <http://sef-jpn.org>

巻頭のことば 「組織」

副理事長 新家彦司

組織はよく「歯車」にたとえられますが、ある老師が自分の著書で、組織は歯車ではなく「網の目」であると言っておられます。

私はSEFについては「網の目」の方がより組織の性格を表していると思っています。網の目のなかの一つだけを取り外すことは出来ません。取り外そうとすれば、ばらばらになってしまいます。つまり、それぞれが個であり、同時に全体でもあるわけです。

シニアのエキスパートを中心に構成されているSEFという組織も「網の目」とおなじように全体を生かしながら自分も生きる、あるいは、自分を生かしながら全体を生かしていくという組織であってほしいと願っています。

11月度理事会より (第82回 11月25日実施)

1. 船舶機器のメンテナンス業務契約 / 審議・承認	5. 月次収支報告 / 報告 今後は毎月理事会にて前月度月次を報告
2. NLCの解散 / 審議・承認 事業支援部会「新規業務開発G」に引き継ぐ	6. 会員入退会 / 報告
3. HP検討グループ設立 / 審議・承認 H22/3迄に改定案 リーダー：石田事務局長	7. (財)日環センター関連事項3件 / 報告
4. 事業実績表更新 / 審議・承認 今後は原則として毎半期毎に更新	8. 各事業部会成行報告
	9. 会員連絡会日程 (H.22) 2/24, 6/16(総会后), 10/28 何れも懇親会有り

事業報告 「事務局紹介」

担当役員 石田理事

事業報告の一環として、今回は事務局メンバーの紹介をさせていただきます。事務局長は石田が勤めさせていただいていますが、事務局の業務量はSEFの発展と共に質・量共に急激に増加しており、一人ではとても支え切れなくなりました。そこで事務局業務の一部を分担して頂いています。会員連絡会関係：新家副理事長、会員管理：佐立理事、各種会議議事録作成：加固理事、カタログ・パンフレットの作成・管理およびSEFたより編集：小泉理事、経理関係：吉村会員、ホームページ維持管理：上條会員 等々です。

このところ事業活動が活発で各種伝票の出入りも多く、吉村会計担当と悲鳴を上げながらフォローをしているのが現状です。

SEFサロン 第54回報告 (11月25日実施)

担当 水嶋会員

講師：萩谷敦氏 演題：「異文化コミュニケーション」

一般に人は「異文化」と接した際に、自己の文化との類似や相違の現象面のみを論じるが、Fons TrompenaarsがCross-cultural Communicationで述べている 固定概念化の問題、七つの価値判断基準、文化構造モデルの理論を講師は夙に着目し、それを解説した。

特に、文化構造モデル理論では、価値観の歴史的背景が“外層”“中間層”及び“内層”と重なっている点が、イスラーム文化の他の文化と際立って相違していることを説明するのに好適であると考え、次の具体例を示した。即ち、異文化から見るとすこぶる異様な“四人迄妻が持てる”というムスリム文化の外層(外から見える姿)は、その中間層(内的規範と価値観)を求めて行くと、イスラームの聖典クルアーンの一章「もし汝ら孤児に公正にしてやれそうもないと思ったら、誰か気に入った女を娶るが良い。二人なり、三人なり、四人なり」(メディナ啓示 176節)に辿り着く。更に、この内層(生存のための条件)を求めると、625年ウブドの戦いで、ムハンマドの属する部族の多くの男が戦死し、未亡人と孤児が大量に発生したので、その救済のため彼は“この啓示”をアッラー(神)から受けたとされている。

ことほど左様に、異文化コミュニケーションを円滑に行うためには、異文化の「玉葱の芯」のような深み(内層)を良く研究して理解する必要があると講師は説いた。

(講師略歴 元三菱商事 現 日本写真協会会員 異文化コミュニケーション学会所属)

11月度会員動向

正会員退会 鶴岡 洋さん (環境事業部会) 家事都合のため	11月末現在の会員数 正会員 35名 準会員 36名 賛助会員 3社
準会員入会 佐々木 勉さん (環境事業部会 推薦理事：加固)	
三塚 康典さん (事業支援部会 推薦理事：佐立)	